

社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時 令和4年5月27日（木）公開授業Ⅱ
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 3年C組34名
 会 場 3B3C教室
 授業者 中村 功佑

1 単元名 第7章 現代の日本と私たち

2 単元について

(1) 生徒観

生徒に事前調査として「現代の世界や日本が抱える課題」を挙げさせたところ、図のように生徒は現代の世界や日本の課題について多面的・多角的に捉えていることが分かった。一方で、それらの課題が発生している要因を問うと、歴史と結びつけて考えることができず、表面上の理解に留まっていることが分かった。

また、自分の身の回りの出来事との関係性が見出せず、当事者意識を持って解決策を考えることを苦手としている。その要因として、確かな知識・技能を基盤とした「思考力等」と、簡単に答えが出ない問いに対して粘り強く取り組もうとする「主体性等」に依然として課題が残ることが推察される。この2つの項目については、昨年度行った資質・能力尺度の調査（表）において、「協調性等」の項目に比べて数値が低下していることが示されている。以上の点から、生徒の「思考力等」と「主体性等」の資質・能力を育成する必要がある。

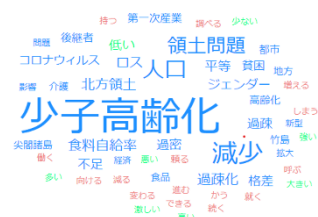


図 ユーザーローカルテキストマイニングツールで分析

思考力等	1回目	3.67
	2回目	3.68
協調性等	1回目	4.00
	2回目	4.01
主体性等	1回目	3.69
	2回目	3.72

表 資質・能力尺度の項目

(2) 教材観

本単元は中学校学習指導要領の歴史的分野C「近現代の日本と世界」を構成する中項目（2）現代の日本と世界を取り扱う。大戦後、日本は民主主義国家として歩み始め、急速な経済発展を遂げたことによって経済大国の一員となった。その背景には、戦後の混乱期に政治や経済の分野で国を牽引した人々の努力があったことは言うまでもないが、一方で、ソ連との対立の中で、日本の戦略的価値を認識し、日本を西側諸国の一員に組み込むことで東アジアへの影響力を強めようとしたアメリカの思惑があった。この時代は日本が、民主化、国際社会への復帰、経済成長の過程においてアメリカの影響を強く受け、今日の「アメリカ寄り」の価値観が形成された時代であると言える。現在、日本とアメリカとの関係は成熟期に達し、アジア諸国の経済成長が進む中、日本経済はアジア地域への依存度を深めている。また、周辺国との多くの外交上の問題を抱えており、日本を取り巻く国際環境は日々変化している。そのような中で、現在の日本が置かれている状況を多面的・多角的に捉え、国際協調や平和外交を推進しようとする意識を醸成する必要がある。

(3) 教科研究との関わり

研究の視点1 主体的・対話的で深い学び

社会科では、主体的・対話的で深い学びを実現するために、単元を「①問いを持つ」、「②問いを深め

る」, 「③問いの解決・問いをつなぐ」という3つの段階に分け、これらの段階をスパイラルに繰り返すこととフィードバックを通して、生徒の主体的・対話的で深い学びを促していく。本単元では、「①問いを持つ」段階は1時間目、「②問いを深める」段階は2～6時間目、「③問いの解決・問いをつなぐ場面」を7～10時間目に設定した。課題解決のために必要な知識・技能を身に付けさせるとともに、国際関係の変化や国民生活の向上、当時の人々の価値観などの視点を与え、それらに関連づけながら多面的・多角的に考察できるようにする。共有の場面では、グループで出た論点を学級全体に共有したり、意図的な指名により生徒の発言をコーディネートしたりすることで、自分の答えを批判的に見て改善を続けたり、新たな問題を発見できるようにする。

研究の視点2 ICTの効果的な活用

資質・能力尺度の調査結果から、自分自身の考えをまとめ、管理するなど、学習を調整する使い方が生徒の主体性等の向上に影響を与えることが分かった。そこで本単元では、学習支援アプリを活用し、学習過程をポートフォリオすることで学習前後の自分の考えを比較させ、主体性等の向上につなげていく。また、課題追究の場面において、生徒が自由に収集した資料を交流したり、価値付けを行ったりする双方向型の活用を行うことで、協調性等の資質・能力を育成していく。

3 単元計画

(1) 単元の目標

知識及び技能	第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたこと、経済や科学技術の発展により国民の生活が大きく向上し、国際社会における我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。
力・思考力・判断力・表現力等	諸改革の展開や国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化と現代の日本の持つ課題との関係性について、社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し表現させる。
人間性等 学びに向かう力	他者との対話や協働を通して自分の考えを再構築することで、公民的分野で解決すべき現代の日本の課題を発見しようとする姿勢を持たせる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ・ 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結を基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を交互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考慮し、表現している。 ・ これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識を持って多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の日本と世界について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

(3) 指導の計画 総括的評価 (●), 形成的評価 (○)

時	学習課題 ・ 学習内容	評価の観点			評価方法
		知技	思考力	態度	
1 節の課題：戦後の日本の変化の要因は何か？					
1	1 節の課題に対する、学習前の考えと見通しを持つ。 ・戦後の日本の様子の写真から、戦時中から政治、国際関係、経済の面で変化があったことを把握し、1 節の課題を設定する。 ・生徒の予想を生かしながら、今後の授業の見通しとなる視点 (①民主化の進展, ②国際社会・国際関係の変化, ③経済の発展) を設定する。			●	課題に対する学習前の考えを持っているかを評価する。(OPP シートの記述)
				フィードバック	
2	戦後改革の中で、民主化において最も重要なものはどれか？ ・NHKforSchool の動画を視聴し、戦後の日本の民主化の流れを把握し、学習課題を設定する。 ・GHQ によって行われた民主化政策について調べ、日本の民主化への影響について個人で考察する。		○		資料から読み取った内容をもとに、自分の意見を記述できているかを評価する。(ワークシートへの記述)
3	冷戦は、日本にどのような影響を与えたか。 ・NHKforSchool の動画や年表を用いて、冷戦が始まった経緯や対立構造を把握し、学習課題を設定する。 ・冷戦が日本に与えた影響を、2 つの視点 (国内の変化, 国際関係の変化) から、個人でまとめる。	○			適切な語句を用いて説明できているかを評価する。(ワークシートの記述)
4	周辺 3 カ国の中で、関係を発展させるべき国はどこか。(1 / 2) ・世論調査をもとに、日本人の周辺 3 カ国 (ロシア・中国・韓国) への意識を把握し、学習課題を設定する。 ・生徒の予想をもとに、考察の視点 (①歴史的背景, ②両国の事情, ③現在抱えている問題) を設定し、調査を行う。		○		課題について複数の視点から考察できているかを評価する。(ワークシートの記述)
5 本 時	周辺 3 カ国の中で、関係を発展させるべき国はどこか？ (2 / 2) ・前時の考えをもとに、異なる国同士でグルーピングし、議論を行う。 ・議論した内容をもとに、学習課題に対する「学習後の考え」を交流する。		○		グループでの交流をもとに、課題について考察できているかを評価する。(ワークシートの記述)
6	高度経済成長期の社会の変化や文化の発展は、人々の生活や価値観にどのような影響を与えたか。 ・アンケート結果 (「日本人の意識」調査 NHK 放送文化研究所) から、学習課題を設定する。 ・経済が国際化したことで生活水準が向上した反面、国内の景気が国際関係の影響を強く受け、「大量消費」などの新しい価値観が流入したことを理解する。		○		学習課題に対して、適切なキーワードを用いてまとめているかを評価する。(ワークシートの記述内容)
7	戦後の日本の変化の要因は何か？ ・これまでの学習をもとに、1 節の課題のまとめを記述し、グループで交流する。 ・事前アンケートや諸調査の結果をもとに令和の日本が抱える課題を把握し、2 節の課題を設定する。			●	複数の視点から、節の課題を考察しまとめているかを評価する。(OPP シートの記述)
				フィードバック	
2 節の課題：令和の日本が抱える課題への、ターニングポイントは何か。					
8	冷戦後の世界と日本の動きをまとめ、節の課題の予想を立てよう。 ・前時の内容から、個々が取り組む「節の課題」を設定する。 ・冷戦後の世界と日本の変化を調べ、「節の課題」に対する学習前の考えを記述する。			○	適切な課題を設定し、課題に対する学習前の考えを持っているかを評価する。(OPP シートの記述)
9	節の課題を解決するための調査を進めよう。 ・同じ視点の課題で小グループを形成し、収集した資料や考察の交流を行う。 ・グループで交流した内容をもとに、個人でまとめを作成する。		○		課題解決のために、他者と意見交流を行っているかを評価する (行動観察)
10	個人のまとめを交流し、2 節の課題を解決しよう。 ・異なる視点の課題で小グループを交流し、個人のまとめを発表する。 ・節の学習を振り返り、終わりの考えを記述する。		●	●	単元の学習をもとに、終わりの考えを記述できているかを評価する。(OPP シートの記述)

4 本時について

(1) 指導目標

戦後の日本と周辺3国との関係改善の流れをもとに、当時の国家間の利害関係や現代の国家間が抱える課題に着目し、今後の日本の外交関係に在り方について多面的・多角的に考察し、表現させる。

(2) 評価規準

今後の日本の外交関係の在り方について、歴史や外交関係、現代の国家間が抱える課題から考察し、表現しようとしている。【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 5	<p>1 前時のグループ学習で出た意見を振り返る。</p> <p>2 小グループに別れ、課題解決のための議論を行うことを確認する。</p> <p>日本の周辺3カ国の中で、関係を発展させるべき国はどこか。</p>	<p>・あらかじめ取り上げる生徒を選んでおく。</p>
展開	<p>3 小グループで、各自が作成したピラミッドランキングを用いて、学習課題について議論を行う。(15分) (議論の視点)・どんな共通点、相違点があるか。 ・根拠に基づいた考察になっているか。</p> <p>4 グループでの議論をもとに、「学習後の考え」として考察を再考する。(5分) ・複数の視点から根拠を挙げているか。 ・考えが変化した人は、その理由を加筆する。</p> <p>5 「学習後の考え」を全体で交流する。(15分)</p> <p>生徒の記述例)【中国を選んだ生徒】 過去に日清戦争、日中戦争と大きな戦いを起こしている相手なので、友好関係を維持していくことは大切である。戦時中に植民地支配を行った韓国との関係も大切であるが、中国に与えた被害が特に大きいので、優先するべきだと思った。米中対立の板挟みに遭う可能性はあるが、上手く関係を築くことで、国際社会からの評価が上がるのではないかと。</p>	<p>・異なる国を選んだ生徒同士で小グループを組んでおく。 ・他グループで話題になったことを取り上げ、関連する情報を調査するように促す。</p> <p>○学習シートの記載内容 ・学習支援アプリで集約し、立場の違いが視覚的に分かるようにシートの色を変更させる。 赤＝ロシア、黄＝中国 緑＝韓国</p> <p>・学習支援アプリで集約し、考えの変化や深まりが見られた生徒を取り上げて発表させる。 ・発表内容に対して、賛成意見や反対意見がつながるようにコーディネートする。 ・発表内容をカテゴライズして、板書する。</p>
35		
終結 10	<p>6 「今後の日本の外交の在り方について」という視点で、本時の振り返りを記述する。</p> <p>7 振り返りを全体に発表する。</p>	<p>・4、5の場面において考えの変化が見られた生徒を取り上げて発表させる。</p>